

各位

2022年9月21日

2022年7月期決算説明会 質疑応答集

本日開催されました、2022年7月期決算説明会における主な質疑応答は下記のとおりです。
 なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

日時 : 2022年9月21日(水) 15:10
 出席者 : 代表取締役社長 金 武祚
 : 専務取締役 益田 和二行

Q1	バイオメディカル事業のライセンスアウト見通しについて
A1	ライセンスアウトについては、最短で2023年7月期以降と考えております。

Q2	AI創薬の高性能抗体の開発に成功とあるが、何が高性能なのか
A2	従来の手法に比べ、ニワトリに対する抗原性の最大化、結合力の最大化及び安定化に成功しております。

Q3	海外拠点は何を対象にどこに設置するのか
A3	主に東南アジアにおける、機能性素材、OEM製品、当社ナショナルブランド製品の生産及び販売拠点の拡充を考えております。

Q4	ENEGGO株式会社(以下「エネゴ」)への出資における三洋化成工業との関係について
A4	当社の強みである卵殻膜を用いて、液体肥料の製造事業を行うエネゴへ出資いたしました。出資を通じ、国内最大規模の卵殻及び卵殻膜の調達を行い、卵殻膜繊維、液体肥料など化成品分野の強化を図ります。 三洋化成工業は、独自のペプチド農業を志向し、宮崎県新富町で実証実験を行っております。両社はエネゴを通じ、それぞれ製品開発及び販売を強化していく予定です。

Q5	CPOの22.7期1Q~4Qの推移と今期の前提、またニューモの復活の背景は何か。
A5	CPOの数値は、製品ごと又は媒体ごとに異なっておりますので、詳細は差し控えさせていただきます。ただし、どの商品も基本的に2年で20%のリターンが出せる水準で、上限となるCPOを設定しております。育毛剤ニューモが足元好調さを取り戻している理由は、前期は他社の育毛剤への参入が増えたが、現在はその過度な競争が減ってきたことが考えられます。何より、当社の育毛剤が消費者の皆様から改めて評価された、効果を実感されたことが一番大きいと考えております。

Q 6	明治薬品の工場を使って、ファーマギバの最終製品を作ることができるのか、またはもう作っているのか。
A 6	明治薬品でファーマフーズの最終製品を生産することは可能です。しかし、明治薬品の自社製品及び医薬品製造受託事業が好調でかつ稼働率が既に高いため、現時点では考えておりません。

Q 7	広告費の計画、上期と下期の配分について
A 7	当期は 450 億円前後の広告宣伝を想定しております。現時点では、それぞれの配分は同程度と見込んでおりますが、チャンスがあればそのタイミング及び投資額は大胆に変更してまいります。